

学校名	太良町立大浦中学校			達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である	
1 前年度 評価結果の 概要	・「授業の時の先生の説明がわかる」と回答した生徒96.9%であったが、授業については改善の余地がある。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。 ・学校評価アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低い。行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。 ・コロナ禍以降、地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあった。「郷土愛」を育むためには、PTAと一緒にボランティア活動を行うなど、新しいことを実践しなければならない。				
2 学校教育目標	郷土大浦を愛し 強く 賢く 美しく生きる生徒の育成 ～大浦中学校が大好きで、故郷大浦に誇りを持つ生徒の育成～				
3 本年度の重点	強 く・・・粘り強さの育成と挑戦できる機会づくり 賢 く・・・主体的な学びを促す授業づくりと気づき考え実行する力の育成 美しく・・・立ち止まっでの挨拶と無言掃除の徹底 基盤となる取組・・・自己肯定感、自己有用感を高める仕組みづくり				
4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価	
(1)共通評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業が分かると答える生徒の割合90%を上回る。	・立腰、学習姿勢、聞き方指導を徹底する。 ・西部型授業の「話し合い活動」の実践する。 ・OPPAの活用による評価の充実を図る。 ・「フォーサイト」によるPDSサイクルを回す力を育成する。 ・タブレットの活用等による家庭と連携した家庭学習の指導を行う。	A	・98%の生徒が「先生の説明がよくわかる」または「わかる」と回答した。ICTを有効活用するなど工夫を凝らした授業に取り組んでいる。 ・授業研究会も随時行い、授業力を高めた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○友達や級友に対して思いやりのある言葉遣いや言葉かけを行っている生徒が90%を上回る。 ○道徳の授業や人権学習集会などで学習したことは自分の心の成長に役立っていると考える生徒の割合が90%を上回る。	・生徒一人一人が、安心して学校生活が送れるような支援体制づくりを全職員で行う。 ・生徒の実態に応じた道徳の授業を、全職員で計画的に行う。 ・QU検査の実施と分析により指導の具体化を図る。 ・担当職員を中心に、人権学習集会を計画的に行う。	A	・98%の生徒が「思いやりある言動や行動がとれている」と回答した。 ・道徳の授業が役に立っていると答えた生徒の割合は96.7%。 ・一人一人の生徒が活躍できる場を設けることで自他ともに大切にする雰囲気を醸成した。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員のいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、80%以上	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。 ・生徒会と連携し、人権集会の開催や人権標語の作成などを通して、いじめをなくすための取組を行う。	A	・生徒、職員ともに全員が「いじめのない学校づくり」を実践していると回答した。 ・生徒数が少ない分きめ細やかな指導ができる。
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・能力ではなく、やる気の有無を大切に指導を行う。 ・あらゆる場面で生徒の「出番」をつくり「役割」を与え、結果だけでなく過程で行った努力を「承認」「賞賛」する。 ・構成的グループエンカウンター等を利用して自己肯定感や有用感を高める。 ・自己肯定感を育む体験活動の実施と評価を行う。	A	・先生が自分の良いところを認めてくれていると答えた生徒98.4%。 ・夢や将来の自分像について考えていると答えた生徒83.6% ・キャリアパスポート等を節目節目で利用したり、行事等で自己を振り返らせたりして進路について考えさせた。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○規則正しい生活ができている（毎日同じくらいの時刻に起き、同じくらいの時間に寝ている）と回答する生徒80%以上。	・生徒の意識・関心を高めるために、保健だよりの発行や検診内容に関する資料の掲示を行う。 ・健康診断の事後指導を丁寧に言い、その後も健康相談を継続的に行う。 ・生徒会の保健体育委員会を中心に感染症予防・健康維持についての定期的な働きかけや調査を行い、意識や行動の変化を確認する。	A	・朝ご飯を毎日食べる生徒91.8% ・早寝早起きの習慣ができている生徒82.3%。今後は家庭と連携をとりながら改善していかなければならない。 ・外部機関（民生児童委員等）と連携をとることも視野に入れ、生活習慣の改善を図りたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日、部活動休養日とし、時間外に行事等を入れない。 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。	A	・88.8%の職員が業務の効率化を図っている。 ・部活動等がない日は、声を掛け合いながら大金をお互い促している。
●特別支援教育の充実	○生徒一人一人の特性に応じた支援	○生徒一人一人の特性に応じた支援を実践していると回答した職員95%以上。	・合理的配慮のための研修会の実施及び通級指導教室の効果的な運用を行う。 ・より良い支援を行うために、成功や失敗した実践を職員で共有する。	A	・100%の職員が生徒の特性に応じた支援を行っている」と回答した。しかし、それは試行錯誤の連続であり、効果的な指導になかなか結びつかない。さらなる工夫・改善が必要である。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果
○郷土愛	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上	・ボランティア活動に積極的に参加させる。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・地域支援コーディネーターを中心に、地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。 ・サービスラーニングを行う。 ・HPを使って積極的に情報発信を行う。	A	・98.4%の生徒が太良町で生活できて幸せだと答えた。 ・地域支援コーディネーターが積極的に関与し地域との橋渡しになってくれている。 ・給食費や副教材費が無料であることを機会をとらえて生徒や保護者へ知らせ続ける。
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育					
5 総合評価・ 次年度への 展望	・「授業の時の先生の説明がわかる」と回答した生徒98%であったが、常に反省し研鑽に努めなければならない。そのためにも、学力向上コーディネーターや研究主任、ベテラン教員がリーダーシップを発揮し、若手を引っ張っていかなければならない。 ・学校評価アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。小さな学校の特性を生かし、職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。 ・自己肯定感や自己有用感が低い。学校行事や生徒会活動等を通して、自己肯定感や自己有用感を育む場を意識的に設け向上を図らなければならない。				